

---

## 第6回横幹連合コンファレンス

### 「サステイナブル・イノベーションのための智」

---

学習院大学 遠藤 薫

Gakushuin University Kaoru, ENDO

---

#### 1 横幹連合コンファレンス

2015年12月5～6日、名古屋市昭和区御器所  
の名古屋工業大学で、第6回横幹連合コンファ  
レンスが開催された。

横幹連合（特定非営利活動法人「横断型基幹科  
学技術研究団体連合」）とは、およそ40の工学系  
学会から構成される学会連合で、既に10年以  
上の歴史を持つ。社会情報学会も、文理融合の理念  
から、設立当初より横幹連合に参加している。ま  
た、本稿の筆者である遠藤は、2013年から横幹連  
合副会長を務めており、強い連携を結んでいる。

横幹連合では、隔年で総合シンポジウムとコン  
ファレンスを交互に開催してきた。2015年度の第  
6回横幹連合コンファレンスでは、「これまで10  
年に亘り横幹連合コンファレンスで議論されてき  
た「コトづくり」を踏まえ、更に次の10年への  
橋渡しの意もこめて「サステイナブル・イノベー  
ションのための智」（「挨拶」より）が統一テーマ  
とされた。4件の特別講演、本部企画の「先達セ  
ッション」と実行委員会企画の「若手研究者セシ  
ョン」の特別セッションとともに、5つの領域、  
ヒトの課題解決と実践、モノの課題解決と実践、  
サービスの課題解決と実践、組織の課題解決と実  
践、その他の課題解決と実践を議論するオーガナ  
イズドセッションによって構成された。

遠藤は、プログラム委員を務めるとともに、「明  
日の社会とロボット」と題したオーガナイズドセ

ッションをオーガナイズし、社会情報学会から櫻  
井成一朗先生（事務局長）にもご登壇いただいた。

ここでは、特別講演と「明日の社会とロボット」  
セッションについて、簡単にご報告させていただ  
くこととする。

#### 2 特別講演

第6回横幹コンファレンスでは、幅広く多方面  
の切り口からこれからの「智」のあり方を考える  
ため、例年より多い4件の特別講演が行われた。

講演者とそのタイトル、概要は以下の通りであ  
る。（〔概要〕は、『予稿集』を参照した）。

■ 基調講演「社会・科学・技術について」：国立  
長寿医療研究センター名誉総長大島伸一氏

〔概要〕我が国は、現在、超高齢社会へと急  
激に変貌しつつあり、科学技術もどうあるべ  
きかが問われている。専門分化にもとづく2  
0世紀の学術から、いかに社会の求める学術  
とするか、経験を踏まえて論じられた。

■ 社会特別講演「人と建築と」：株式会社みかん  
ぐみ代表取締役加茂紀和子氏

〔概要〕時代と共に変化する建築の在り方に  
ついて論じ、人の居場所として、多義的な社会  
資本としてあるために様々な分野とのコラボ  
レーションが必要であると論じられた。

■ 技術動向講演「3D プリンタの創作過程、当  
時の評価、特許の失敗」：快友国際特許事務所

弁理士小玉秀男氏

〔概要〕3Dプリンタの必要性を意識してから萌芽的技術に巡り合うまでの過程を述べ、日本で3Dプリンタ技術の特許取得がなされなかった「失敗の本質」が論じられた。

- 挑戦若手講演「切れ味の良い分子を自然界にもとめて」：筑波大学数理物質系化学域准教授北将樹氏

〔概要〕天然由来の化合物は、構造や機能の点で多様性がみられ、化学の視点から生物学の重要な事象を解明してきた。本講演では、これまでに氏が発見した生物活性天然物の構造や機能について紹介された。

### 3 オーガナイズドセッション「明日の社会とロボット」

このセッションは、「近年、従来の「ロボット」とは異なるイメージのロボットが続々と実用化されている。例えば、無人飛行体のドローンや、自動掃除機のiRobotなどである。ロボットを産業化することの可能性と問題とを、分野横断的かつ客観的に議論する場をつくる」という趣旨で企画された。

登壇者とその報告タイトル、報告概要は以下の通りである。（\*を付した登壇者は、社会情報学会会員、〔概要〕は、各報告者の予稿から編集させていただいた）。

- オーガナイザー：\*遠藤薫（学習院大学）
- 「明日のロボット創り」：平井成興（千葉工業大学）

〔概要〕ロボットは、従来から製業造では盛さんに使われてきたが、最近、サービス業でも導入が進められてきている。ロボットが我々の社会に浸透してきた経緯を振り返り、現状の動向から、これからのロボットはどのように創られていくのか考察する。

- 「ロボットとシンギュラリティ」：\*櫻井成一朗

（明治学院大学）

〔概要〕現在、人工知能は第三次ブームが到来し、シンギュラリティの可能性が指摘されるようになってきた。シンギュラリティとは、機械知能が人間を凌ぐようになることを意味する。本稿では、SF映画における描写に基づき、ロボットと人のあり方を考察する。

- 「ロボットと生きる明日の社会」：\*遠藤薫（学習院大学）

〔概要〕ロボット実用化の進展は、「ロボットと人間の共生は可能か」という古典的な問題を改めて浮かび上がらせている。2015年5月に実施した意識調査<sup>1)</sup>の結果を踏まえつつ、人類史的な視点からこの問題について考察する。

### 4 今後に向けて

今後も、このような広がりをもった議論の場を拡げていきたい。なお、昨年度開催された第5回横幹総合シンポジウムの「カワイイ文化」に関するセッションは、大きな反響を呼び、2016年4月に公刊される。ご覧いただければ幸いです。

2016年11月18～19日には、慶應義塾大学矢上キャンパスで第7回横幹連合コンファレンス（2016年度から、毎年「横幹連合コンファレンス」とする）が開催される。みなさまのご参加をお待ちしています。

#### 参考文献

横幹連合第6回総合シンポジウム実行委員会（2015）『第6回横幹連合コンファレンス』予稿集



会場の名古屋工業大学（2015.12.6 遠藤撮影）